

## 第 18 回日本放射線安全管理学会 印象記

永松 知洋  
Nagamatsu Tomohiro

日本放射線安全管理学会の第 2 回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会（第 18 回学術大会）が令和元年 12 月 4～7 日の 4 日間にわたり、東北大学の東北大学青葉山新キャンパス 青葉山コモンズにて開催されました。筆者自身は一学会員として参加いたしました。会期は 4 日間にわたりプログラムされており、主に青葉山コモンズ翠生ホール及び災害科学国際研究所多目的ホールに分かれて行われました。

感銘を受けました。5 日に行われた開会式の後「放射線防護分野における原子力規制委員会の取り組み」と題して原子力規制委員会の伴 信彦氏のご講演を拝聴いたしました。内容としては、規制委員会のできた経緯、近年から最近まで取り組んできたこと、更には今後何が重要となってくるのか、それを実現するには各界の連携が不可欠であること等でした。いつもながら、とても大切なお話でした。ただし、私が感銘を受けたのは、そのお話が終わった後話された「ここからは私個人の考えですが…」からの部分でした。判氏の仰られた言葉通り再現はできませんが「この分野の中だけで放射線に関連する様々な課題を解決していくのではない。本学会には放射線をとおして様々な分野の人材が数多く関わっているのが特徴である。これからは、知識、技術、経験を様々な専門分野で積んだ人材を育成していく道筋を作ることが重要である。そして、他のあらゆる分野と協力していく上で本学会には Hub の役割を担って欲しい。」という趣旨の話がされたかと思えます。この部分には大変感銘を受けました。

感動しました。その会場内は、日本にいながら

際学会に参加しているような印象を受けました（まだ一度も国際学会に参加したことはありませんが…）。それは、5 日午後から災害研の多目的ホールで行われたセッションでした。英語の苦手な私が、それを承知の上で臨みました。とても若い方々が次から次に講演した後、それに対して質疑応答が行われていました。兎にも角にも、若さと熱い情熱がひしひしと伝わってくるのです。本当に次世代を担っていくであろう若者たちの情熱に感動したセッションでした。活発に議論されていた内容については、座長の先生をはじめ演者の先生もフロアの皆様も皆流暢に流れるような英語で話されるため、その場で理解することは難しいものがありました。

大盛会でした。私が 1 番に楽しみにしている交流会は、5 日の夜に開催されました。大会長から「最低 3 名はこの交流会で新しいお知り合いを作ってください」とのご挨拶があり、そのおかげで私自身も気合が入り、ノルマ達成とまではいきませんでした。それでも頑張って男女それぞれ 1 名ずつ計 2 名の方と名刺交換をさせていただくことができました。

**写真 1** は交流会の様子です。東北大学のキャンパス内にあるキッチンテラスクルールで行われました。ご覧いただくとよく分かりますが、円を描くように大変横に長い会場となっており 1 番奥の方までは見えません。とても印象的な会場でした。**写真 2** は、最終日の各種大会賞の授与式の様子です。これまでの賞状を渡す形式ではなく、受賞者の方の背後のスクリーンに表彰状が映し出される形式の授与式で、これも大変印象的でした。

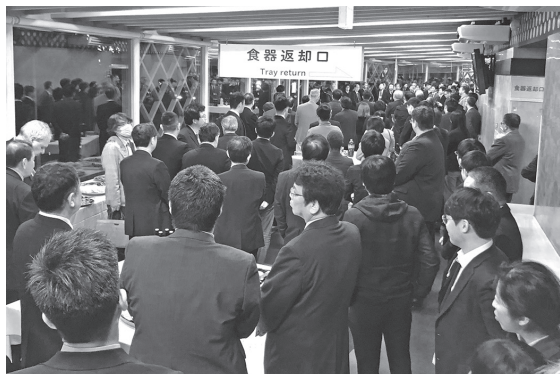


写真1 交流会の様子



写真2 大会賞授与式の様子



写真3 日本放射線安全管理学会会長 中島覚氏



写真4 日本保健物理学会会長 甲斐倫明氏

最後の2枚の写真は、日本放射線安全管理学会会長の中島覚先生と日本保健物理学会会長の甲斐倫明先生のご挨拶の様子です（写真3,4）。

最後に、印象記等を書いたりすることが初めてのことで、きちんとお伝えすることができず、誠に申し訳ございません。

今回は、12月の沖縄にて学術大会が開催されるそうで、今から大変楽しみです。それまでみなさま健康第一でお過ごしください。

（岡山大学自然生命科学研究支援センター  
光・放射線情報解析部門鹿田施設）